

高吉久くざる一ヶ。而要時やど経て出来たり。

木下高吉勧涉佐屋川戦上 屬 藤吉先進

隼鷹一顧よく獲をとつゝ。方僅頃刻と経る隙ニ木下藤吉郎  
高吉疾くも歛地と沈観。自軍の陣へ立候るを大乃信長御覽  
ノ々小様め何とそ陣かへ立ざる快楽あれよと呴きをゆふ。藤吉郎へ  
小走モ。仲希とく蹲す。鐵田坂木下に向をゆひ。信乃の評定  
の手を決せ。進ぐ戰ふ陣やよし。又退く。行ぎよきや。汝がむ不仕合  
り。せ。異心と听えと曰ち。藤吉郎。ひそ拾げ。慙る戰場の期よ  
乃んで。其御評定ハ何縛ぢや。進ぐ軍あらず。大利ある。義人矣。  
且退く。欲とねば。ぬく大なる矢あらん。快く進まをゆべ。と言をと  
宋四太小怒。汝いうちれべ。奈ふ然ある何と言ひ。我君血氣の勇

信セ。惄らをゆふと諸老曰。これと諫めせらる。汝一人軍と進む。  
主君の御心と惑せまひ。を以ての外の檻於兒。いふられべをむ  
か利あく。退く。お笑ひありや。所存猶を僧く。听うんと声振えせ  
仰。藤吉郎。莞尔と笑ひ。生く。活る。お魂。すたへもあらふ。魂  
あれ。所存。あり。后と。お笑く。若小仕へ心と竭と。忠儀と。も。うよ  
と遙く出陣せ。りの。彼川界。小陣と居涉ら。むる。豫の。う。う。  
我君これと防ぐ。と。徳軍と率ひて出陣す。直。よ。河とお見  
し。鐵舟。と。宜。また。見る。是。往速の銳を。ふ。また。自軍の锐  
き。亂。とり。と。徳兵の。猶豫の。を。と。敵と。た。必勝の勢。う。付。小軍の  
大。ね。の。機。ふ。固。の。う。鐵舟と。曰。速。よ。戰ふべ。然。小。時。機と